



NPO Yokohama Sports & Culture Club
〒231-0811 横浜市中区本牧埠頭3
USS インターナショナル内
TEL: 045-621-8760 FAX: 045-621-8761
mailto: info@yscc1986.net

加藤久さん (元日本代表キャプテン・前 京都サンガ監督) にお会いして

先日、元日本代表キャプテン・前 京都サンガ監督をお勤めになった加藤 久さんに、クラブ創設者の一人、唐井さん (現 町田ゼルビアGM) のご紹介で、お会いできる時間を頂戴することができました。

加藤さんは、今回の東日本大震災でご家族が被災され、現在、被災地への物資の援助や炊き出し、また、震災により街の機能が失われた地域で生活する子どもたちの将来を按じ、少しでも、震災前の日常を取り戻すため、東北6県のサッカー協会と協力のもと、「東北サッカー未来募金」を設立なさいました。

YSCCでは、今回の震災に際し、いち早くスタッフがボランティア登録をし、まずは、不特定多数の方々への援助となるよう、石巻の方々にタオルやシャンプー、市内の避難所に毛布やトイレトペーパー等を持参し、「国境なき医師団」への寄付や日本赤十字社に皆様から集めさせていただきました義援金を寄付させていただきました。

被災地への義援金に関し、日本赤十字社などを通じたものや、現地での復興活動に従事している団体への支援金など、非常に目に見えにくいなどと報道されております中、今回の「東北サッカー未来募金」は、「地域はファミリー」をテーマに掲げ、JFAのもと活動を行っている我々にとって、フットボールファミリーが、未来ある子どもたちの健全育成に力を合わせる事が重要だと感じさせてくれました。

当クラブでは、今後、サッカーを通じて御縁をいただきました方々や子どもたちの育成に役立てていただけるよう、目に見えやすい形の支援を継続的に行って行こうと思っております。

お話を聞かせていただいた中で印象的であったのは、「毛細血管から動脈作りへ」という言葉でありました。

被災地の被害は、報道でもつかめますが、報道では見えないところに本当の被害があり、刻々と変わりゆく被災地のニーズ、空気を読めないと良いことでも「嫌な思いをすることがある。1か月前であれば地元仙台の選手たちですら何をしに来たのか？」と問いかけられてしまうほど、サッカーどころではなかった現実があったようです。

また、物資は、時間の経過や地域によって必要なものが異なり、孤立し、本当に必要なところには支援物資が行き届かず、逆に余ってしまうところもあり、運搬体制の整備もままならない状況のようです。

そんな中、地域クラブ間の支援やサッカーで縁をいただいている企業の方々の草の根支援が、毛細血管のように多角的に広がりを見せ、子どもたちへの援助が進んでいる様子には、ありがたさを強く感じておられ、今後は、動脈のごとくより太いネットワーク作りを行うことで、細部にわたる支援が行き届く体制作りの大切さを話されていました。

実際に、現地に行かれた方のお話は重く、想像を絶する今回の東日本大震災に対し、当クラブでは、できることを継続的に行うこと、義援金活動を行うことで少しでも被災地の方々のニーズに合った利用をしていただけるように活動を行いますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

平成23年5月14日